



The Democratic Party of Japan

民主党

逗子市議会議員団

活動報告



高野 たけし

(たかの たけし)

民主党公認 37歳

逗子市議会議員 (2期目)

民主党第4区総支部幹事長代理
中央大学大学院修士課程修了



長島 有里

(ながしま ゆり)

民主党公認 31歳

逗子市議会議員 (1期目)

民主党第4区総支部常任幹事
鎌倉高校卒
立教大学法学部卒



小林 和茂

(こばやし かずしげ)

民主党公認 45歳

逗子市議会議員 (1期目)

民主党第4区総支部常任幹事
早稲田大学卒

政権交代を活かせ！ 今こそ地域主権の 逗子発モデルを示そう。

地域主権は「1丁目1番地」

鳩山総理大臣は施政方針演説で、地域主権を「国のかたちの一大変革であり、鳩山内閣の改革の一丁目一番地」と訴え、本年を「地域主権革命元年」と位置づけました。これは、「地域が民主主義の主役になる」という強い意志を表しているといえます。たとえばアメリカのカメル市では、市長の給与は月約2万円、議員は月約1万円と、日本の一般的給与水準に比べ20分の1以下。その代わりに議会の拘束は月に1日だけです。

その一方で、日本の自治体と同じような給与水準と拘束時間の自治体もあり、地域ごとに多種多様です。

しかし、日本では「地方自治法」があまりに細かく自治体のあり方を指定しているために、画一化してしまっています。議員定数についても、人口5万人未満の市は26人以下、人口5万人以上10万人未満の市は30人以下などと上限を定めています。この上限が事実上の目安になってきた面は否めません。

ただし、逗子市では今回、市議会議員の定数が22名から20名に削減されました。民主党が提案した18名よりまだ多いのですが、一歩前進だと考えています。

日本においても、地域の実情や住民の意志に合わせて、地域ごとにふさわしい行政や議会の仕組みを選択できるようになることが望ましいはずですが。

そこで民主党は、国(中央)が何もかも指図するのではなく、地域のことは地域住民の意思で決められるようにするため、地方自治法の改正を目指しています。第1弾として、前述の議員定数の上限を撤廃する地方自治法の改正案を本国会に提出しますが、まだまだ改正の余地があります。

改正に向けた議論の中では、国と地方の協議の場をつくる究極の方法として、知事が参議院議員を兼務して地域の声を国政に反映するという意見も出ています。このほか、現行憲法の枠中でどんなことができるのか、検証が進められています。

「地域のことは地域で決める」。このような本格的な地域主権の時代が到来するよう、政権与党の一員として、私たち民主党逗子市議団も活動していきます。



去る平成22年逗子市議会第1回定例会で、会派を代表し、長島有里議員が質問に立ちました。その議会中継の録画を、インターネットでご覧頂けます。

<http://www.city.zushi.kanagawa.jp/gikai/>

逗子市議会ホームページ>本会議インターネット中継>会期日程>平成21年11月(第4回)定例会>12月9日(水)本会議>長島有里①②■



事業の規模に見合った行政のスリム化を

<長島有里>

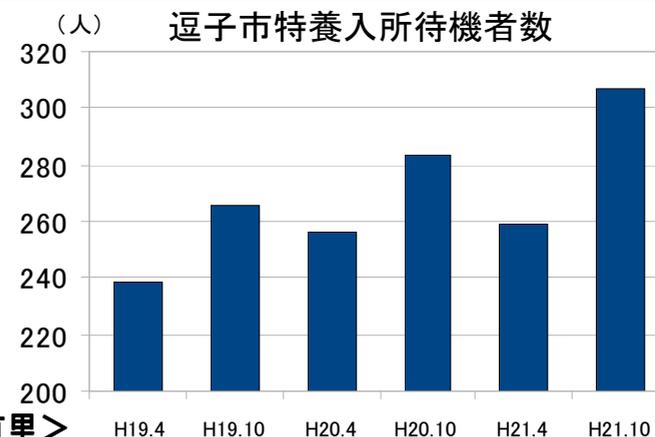
Q.逗子市の人件費の比率は平成22年度当初予算で31.3%。これは、県内の市としてはワースト1。一方、逗子市が平成14年度から進めてきた「職員半減化」計画も中断され、平成22年度以降の計画も策定されていない。

<平井市長>

A.逗子の人件費率が高いのはご指摘のとおり。人件費削減を含め、民間委託の推進もしっかりと行革の中で位置付けているので、今後とも最大限努力したい。

※今後、民主党政権によって国の出先機関が廃止された場合には、それに伴って地方分権されて逗子市の仕事量が増え、国の職員も受け入れることになるため、職員半減化の見直しも一定の理解はできる。しかし、そうなっていない現状においては、的確な対応を引き続き求めていきたい。

ついに307名。特養ホーム待機者の解消を



<長島有里>

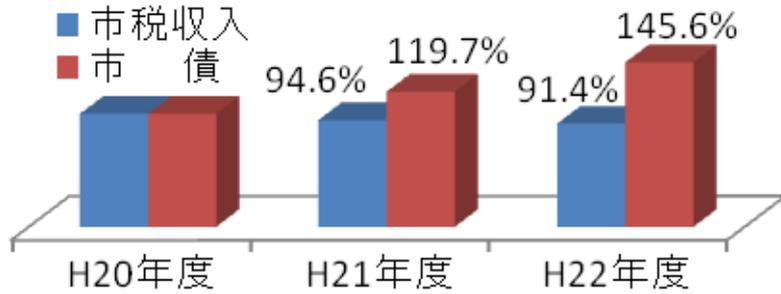
Q.逗子市の特別養護老人ホームの入所待機者数は年々増加し、平成21年度には307名にのぼっている。特養の誘致を待っているだけでなく、高齢者専用の賃貸住宅の整備など、市の責任でやるべき施策をとるべきではないか。

<松下福祉部理事>

A.特養については、意欲があるところ(事業者)は今までもあったが、場所的なこと(立地の問題)がどうしても課題になりなかなか(誘致が)進んでいない状況にある。今後も整備が進むよう努力していく。

逗子市にも「事業仕分け」の本格導入を！

一般会計予算に占める市税収入と市債の変動



左記のグラフは、平成20年度実績を基準(100%)として市税収入と市債の変動を表したものです。平成22年度予算までの動きを見ると、市税収入が減少傾向にある一方、市の借金を表す市債は増加傾向にあることがわかります。財政体質改善が喫緊の課題であることがよくわかります。

平成22年逗子市議会第1回定例会では、特別委員会を設置して来年度予算の審議を行いました。平成23年度においては、歳入の根幹をなす市税の減収が見込まれるため(上図参照)、苦しい予算編成となっています。民間企業ならば、長期ビジョンを掲げ、現状を分析した上で今何をすべきか検討し、予想される売見に見合うよう経費を切り詰めたり、赤字の大きい事業から撤退したりして事業を展開していくものです。しかしながら行政の場合、一度始めてしまった事業は廃止するどころか縮小することもなかなかできないという、悪しき慣習があります。歳入が右肩上がりの時代であればそれでも何とかあったかもしれませんが、しかし、現在のように先行き不透明な時代においては、返せるあてのない借金を増やすばかりとなってしまいます。そこで民主党としては、「事業仕分け」の本格導入を含む行財政改革に取り組んでいきます。

◆現在の事業を徹底的に取捨選択

「自治体のエンゲル係数」と言われる経常収支比率ですが、逗子市は実に99.0%！つまり、今やっている事業で手が一杯で、新たな事業を始める余裕がほとんどありません。そこで必要なのが、「今やっている事業は、そもそも必要なのか？」と見直すこと。その有効な手段のひとつがサービスの受け手である市民や学識経験者など、第三者の目線を取り入れた「事業仕分け」です。これを本格的に逗子市に導入する必要があります。財政状況が厳しいからこそ、事業の取捨選択を行った上で「必要な事業には、本当に適正な予算はいくらなのか？」「削減分の予算でどんな行政サービスを提供すれば、住民ニーズにもっと応えることができるのか？」、キッチリ見極めることが大切です。



◆民間委託で行政をスリムに

実は、全国でもかなり早く逗子市では、平成18年1月に事業仕分けを教育委員会の43事業を対象に試行した実績があります。この結果、社会教育指導員経費と子供ふれあい農場支援事業(合計138万7,000円)が廃止になりました。「事業仕分け」によって取捨選択した結果、「行政がやらなくてもいい」と判断された事業は、特に、民間への委託も選択肢のひとつです。「民間のノウハウ・人材・資本を活用したほうが、市が行うより低いコストで質の高いサービスを市民の方々に提供できるかどうか？」「民間に任せることで、不公平や弱者の切り捨てが起こらないか？」この2点をしっかり見極めた上で、積極的に民間委託を検討する必要があります。

退任のご挨拶



私儀は今任期を以て議員としての活動を終えることにいたしました。在任中の皆様のご支援に心から感謝申し上げます。今後は議員としての経験を活かしながら、再び福祉の道にて精進をまいります。介護保険制度は国からのトップダウンで一地方自治体での対応には限界があります。国政・県政と連携をとれる民主党の力が期待されています。市政については、高野さん・長島さんにしっかりとお願いをしました。今後とも民主党逗子市議会議員団に暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。逗子市議会議員 小林かずしげ

あなたの声を、聴かせてください。

ご記入欄

- お名前:
- ご住所: 〒
- 連絡先

E-mail:
お電話:

※個人情報保護法上、記入いただいた個人情報は、当方からのご連絡以外の目的で使用することはありません。

この用紙に記入してFAXいただくか、Eメールでご意見ください。



Fax: 046-801-5318
 E-mail: minshuzushi@gmail.com

【編集後記】

私たちは、四年の任期をまもなく終えます。このため、今任期における最後の党派新聞になります。かつて無所属だった高野たけしと長島有里の党派「市政クラブ」と、民主党の小林かずしげ議員が合流し、二〇〇九年五月より「民主党ずしげクラブ」として三名で活動してきました。最近も、市議会の定数削減、小児医療費の無料化における所得制限の撤廃など、他の党派では党派内での対応が分かれたテーマもありましたが、私たちは三人一丸となって取り組んできました。しかし、左記のように今期をもって小林議員が勇退することになり、大変残念です。ただし、再び介護の現場で奮闘することですので、今後も現場からの提言や情報を寄せてもらい、連携しながら仕事していきたいと考えています。無所属でスタートした私たちの活動でしたが、現在では民主党の一員として、地域の現場と政府を結ぶパイプ役としての活動も担っていくことになり、党派名も「民主党逗子市議会議員団」に変更することとなりました。民主党マニフェストの実現を地域の現場からサポートしながら、逗子市民の声を市政に反映していくためこれからも全力で頑張ります。

高野 たけし
 長島 有里